

<巻頭言>



年頭のあいさつ

柳川 城 二*

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

皆様ご案内のように、ここ数年、大変厳しい気象条件により、水害・土砂災害が頻発するとともに、地震による災害も多発しています。昨年も西日本を襲った豪雨災害、台風21号をはじめとする相次ぐ台風による災害、大阪地震や北海道胆振東部地震による地震災害等、自然災害が多発しました。もともと我が国はこれらの自然災害に対して、厳しい条件下にあります。最近の災害は、その程度が一段と激化したような感があります。

このような厳しい気象条件により、これまでの記録を大きく上回る豪雨が多発していますが、ダムによる洪水調節が洪水被害の軽減に大きな役割を果たしており、ダムの役割が広く認識されるようになってきました。その一方で、洪水調節機能がまだまだ十分でない地域も多く残されており、新規のダム建設に加え既設ダムの再開発により、一層の洪水調節機能の増強を図ることが望まれます。

この相次ぐ災害の多発を踏まえ、政府においては、防災・減災のための国土強靱化の緊急対策が取りまとめられ、向こう3年間でこの対策を重点的に進めるという方針が示されています。

十分な予算が確保され、この対策が実効性のあるものとなることを期待したいと思います。

国際大ダム会議は、1928年に設立されましたが、昨年は90周年を迎え、昨年12月には、本部のあるパリで90周年を祝う式典が盛大に行われました。

国際大ダム会議の加盟国は、ここ数年、発展途上国の相次ぐ加盟により100か国になりました。ダムによる洪水調節、食糧確保のためのかんがい用水の開発、再生可能エネルギーである水力発電による電源開発等、多くの国々がダムに大きな期待を抱いています。

昨年7月にオーストリアのウィーンで開かれた国際大ダム会議第86回年次例会・第26回大会において、国際大ダム会議前総裁のスイスのシュライス氏は、このようなダムに対する多くの国々の期待を念頭に国際大ダム会議は「Better dams for a better world」を目指すと述べています。

より良い日本、そしてより良い世界を築くため、日本大ダム会議も Better dams の実現に引き続き貢献してまいりたいと思います。本年も皆様方のご支援とご協力をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

* 一般社団法人 日本大ダム会議 会長